情報活用能力系統表【参考例】　R4．2月　大分県教育委員会高校教育課

|  |  |
| --- | --- |
| 世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力（高等学校学習指導要領解説　総則編） | |
|  | 高等学校 |
| A　知識及び技能 | （ｱ）目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作ができる  （ｲ）複数の表やグラフからデータを読み取り、統計量や回帰等を用いて統計的に情報の整理・分析ができる  （ｳ）クラウドを活用して、データの権限を設定したり、そのデータを使って協働作業をしたりすることができる  （ｴ）目的や必要に応じた適切な方法で情報を検索して、取得した情報の信頼性や一般性にもとづいて主張の論拠としたり、取得した情報をもとに推論したりする仕方を理解している  （ｵ）問題解決に向けた自身の考えをモデル化したり、適切なアルゴリズムを考え、安全・適切なプログラムの制作をしたりすることができる  （ｶ）情報システムや情報通信ネットワークの仕組みについて理解できる  （ｷ）情報セキュリティを確保するための方法や仕組みについて理解できる  （ｸ）Webページ、SNS、ライブ配信等のメディアの特性を理解した上で、自他の責任や義務を考えた発信・交流ができる  （ｹ）情報に関する個人の権利とその重要性や、情報に関する法規・制度、マナーの意義について理解できる |
| B　思考力、判断力、表現力等 | （ｱ）複数の資料から、多くの事実や確たる根拠に基づき見付け出した情報を、目的に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」注）を自在に活用したりして整理し、自分の考えを明確にする  （ｲ）情報及び情報技術の活用について、多様な視点で振り返り評価・改善する  （ｳ）問題に対する多様な解決策を、目的や受け手の状況に応じて、適切にWebページ、SNS等で表現・発信したり、プログラミングによって実現したりする  （ｴ）問題解決策の手順をどのように改善すると、よりよい結果に近づくのかについてオンラインコミュニティ等を活用しながら論理的・協働的に考える |
| C学びに向かう力、人間性等 | （ｱ）情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする  （ｲ）情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し改善しようとする  （ｳ）情報セキュリティを確保する意義を踏まえ、情報及び情報技術を創造しようとする  （ｴ）個人の権利とその重要性や自他の責任や義務を理解して行動しようとする  （ｵ）情報に関する法規や制度の意義を踏まえ、適切に行動しようとする  （ｶ）電子メール、掲示板、SNS等の利用について、公共性を意識し、望ましい情報活用の在り方について提案しようとす  　　 る  （ｷ）情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、適切に行動しようとする |
| 考えるための技法 | 【順序付ける】複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える  【比較する】　複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする  【分類する】　複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる  【抽象化する（一般化する、統合する）】対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする  【関連付ける】複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける　 ある対象に関係するものを見付けて増やしていく  【多面的に見る・多角的に見る】対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする  【具体化する（個別化する、分解する）】対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする  【構造化する】　考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する  【理由付ける（原因や根拠を見付ける）】対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする  【見通す（結果を予想する）】見通しを立てる。物事の結果を予想する  ※高等学校においては、「考えるための技法」が自在に活用できるものとして身に付くことが期待されている  （詳細は高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編P96） |